

## 再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課  
担当課長名：服部 卓也

事業名	連続立体交差事業 北海道旅客鉄道札幌線（篠路駅付近）	事業区分	連続立体交差	事業主体	札幌市
起終点	自：北海道札幌市北区百合が原7丁目 至：北海道札幌市北区篠路6条7丁目	延長	1.7km		
事業概要					
<p>本事業は、北海道旅客鉄道札幌線の篠路駅付近の約1.7kmにおいて、鉄道を高架化することにより4箇所の踏切（うち、見なし踏切1箇所）を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。</p>					
R2年度事業化		H29年度都市計画決定		R2年度用地着手	
全体事業費		約184億円		事業進捗率	
				約8%	
				供用済延長	
				— km	
計画交通量					
59,271台時/日（踏切交通遮断量）					
費用対効果	B/C	総費用	総便益	基準年	
	(事業全体) 1.1	(残事業)/(事業全体) 158/185億円	(残事業)/(事業全体) 196/196億円	令和5年	
	(残事業) 1.2	事業費：157/185億円 維持管理費：0.44/0.44億円	移動時間短縮便益：178/178億円 走行経費減少便益：17/17億円 交通事故減少便益：1.8/1.8億円		
感度分析の結果					
<p>(事業全体) 交通量：B/C=0.96~1.2（交通量±10%） (残事業) 交通量：B/C=1.1~1.4（交通量±10%）                  事業費：B/C=0.97~1.2（事業費±10%） 事業費：B/C=1.1~1.4（事業費±10%）                  事業期間：B/C=0.97~1.2（事業期間±20%） 事業期間：B/C=1.1~1.4（事業期間±20%）</p>					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道により分断されていた市街地が一体化されるなどのまちづくりに貢献</li> <li>・駅舎及び関連道路の整備によるバリアフリー化の促進</li> <li>・高架下空間の活用による都市機能の向上</li> <li>・渋滞緩和や踏切待ち解消による環境負荷の低減</li> <li>・踏切除却等による緊急車両のアクセシビリティの向上</li> </ul>					
関係する地方公共団体等の意見					
篠路地区街づくり促進委員会から、本事業の早期完成の要望を受けている。					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
周辺環境等に特に変化はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率約31%、事業進捗率約8%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
残る用地の取得を継続しており、今後は早期完了を目指し、仮線・高架橋の工事を推進していく。					
施設の構造や工法の変更等					
今後も新技術の採用や工法の見直しによる工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。					
対応方針					
事業継続					
対応方針決定の理由					
事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。					

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。